

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行
第五福竜丸平和協会
〒136 東京都江東区
夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494

「都民運動」には、当初のよびかけ六市民団体（東京都地域婦人団体連盟、東京都原爆被害者団体協議会、主婦連合会、東京都地域消費者団体連絡会、日本青年団協議会、東京都生活協同組合連合会）をふくめ、三一の団体が参加しています。

結成集会では、「東京都への要請」、行動計画などを確認し、「都民運動」

「都民運動」は、昨年一二月、和歌山の市民の手によって引き揚げられた第五福竜丸のエンジンを、夢の島の船体との再会をめざして取り組まれてきた「和歌山県民運動」（三月一日結成）のよびかけに、準備されていたものです。（和歌山県民運動の「趣意書」要旨は二めに掲載）

「第五福竜丸エンジンを東京・夢の島へ都民運動」の結成集会が一〇月三日午後二時から東京・飯田橋の東京都消費生活総合センターで開かれ、東京在住の多くの原爆被害者をふくめ一七〇人が参加しました。

第五福竜丸エンジンを東京・夢の島へ——和歌山県民運動につづいて、東京都民運動が発足しました。一日も早くエンジンをむかえ、その展示を機に展示の充実をはかり、また企画行事を催すなど、第五福竜丸展示館の役割と期待に、多くの来館者をむかえたいと思います。

船体とエンジンの歴史的再会へ

世話人に小柴美知さん（東京都地域婦人団体連盟会長）、伊東壯さん（東京都原爆被害者団体協議会会長）を選び、先の六団体に原水爆禁止東京協議会を加えて事務局団体とすること、連絡事務局を都生協連に置くことを確認しました。集会では共産党、公明、民主党、生活者ネット各会派の都議が挨拶しました。

第五福竜丸元乗組員の大石又七さんは「船もエンジンもその現れ方に運動への語りかけがある」と話し、エンジンを引き揚げた杉末廣さん（和歌山県民運動よびかけ人）は「一日も早くエンジンを船体のそばにとどけ多くの人の見てほしい」と語り、感動を与えました。和歌山県民運動世話人の尾添仁さん（わかやま市民生活協同組合専務理事）は、県民運動の募金目標八〇〇万円がすでに達成したことを報告し、都民運動への要請、展示館への受け入れをよびかけました。

集会では、一九六七年当時、船体か

「都民運動」の準備段階から参加してきた第五福竜丸平和協会は、一〇月一日の理事会で、エンジンの発見から引き揚げまでのご苦労をはじめ、「和歌山県民運動」、「都民運動」のそれぞれのご努力にたいし、敬意と感謝をお伝えするとともに、第五福竜丸展示館の日常業務に携わっている平和協会として、これまでの経過をふまえ、エンジンの展示、保存に十分な役割を果たして行くことを確認しました。協会として都の担当部局にたいし、エンジンの受け入れが有意義であること、その保存・展示の方法など、適切な対策を講じられることについて申し入れを行うことにしました。

（山村茂雄記）

冷雨の中、熱っぽく 九・二三の集い

今年の九・二三は終日雨。展示館では恒例の四つのつどいがひらかれました。早くから船体を見つめつつ句作にはげんだ「第17回久保山忌句会」の俳句人たちは久保山愛吉「遺言碑」にりんどうの花を手向けて近くの句会場へ。十時、船首では「第6回平和を語る第五福竜丸の集い」が30名近い参加者ではじまり、船尾では階段からこぼれんばかりの参加者の熱気のかで「核実験反対・核兵器廃絶第五福竜丸の集い」がもたれました。東京原水協の主催によるこの集いのメインはシンポジウム「第五福竜丸エンジンと夢の島へ」。和歌山県原水協の雑賀光夫さん、江東区職労の若島幸作さん、平和協会の山村茂雄さんらをパネラーに広



平和を語る第五福竜丸の集い

範な都民運動への方向を討議しました。「平和を語る集い」は午後九時の部もあり、紙芝居、語り、絵本の読み聞かせなどつぎつぎに演じられ、うたや合唱、ギター・民族楽器演奏もあつて拍手に包まれました。第五福竜丸保存、マクロ塚のための募金も行なわれました。平和と軍縮をめざす全国連絡会の「久保山氏追悼学習の集い」も、三崎の森田喜一さんをよんでビキニ被災船の学習。俳句の披露・講評・懇親会と続いた句会も夕方、今年の「特別船員賞」に田中千恵子さんの一句を激戦の末選出して終了しました。

真樹の瞳のりんどうの雨碑に肩に



核実験反対、核兵器廃絶第五福竜丸のつどい

（三面よりつづく）
を沖合いの海中に設置し、寄贈品の陸揚げを行なった。
九月一日午後、小学生七〇名と沖合いを初クルージング。夜、学校で歓迎パーティ。郡と島田が出席。席上、副村長のアレットが転覆事故にふれ、「助けに行かなかったのは、ボートがなかったからで、メジャートの人間は決して（人を見殺しにするような）悪い人じゃない。二度とこんな事故は起こさない」と釈明。
翌日、リ号は病院に行く婦人十人乗せイバイ島へ初航海。操船



上 調印式後、ロングラップ村会議員の試乗会（マジュロ）
下 三枝大使（左）とカブア大統領（その右）による調印式（マジュロ）

は島民のナンパーワン船長のエビル。イバイに到着後、船の鍵をエビルに渡し、私たちの第一段階の全行動は終わった。
また、イバイ島は電気・水道など生活環境が極端に悪く、ボランティア派遣計画は少し先送りすることにした。
しかし、来年二月には、船の定期点検のため数名のボランティアがイバイ、メジャートを訪問する予定で、それまでに第二段階の活動の詳細を練り上げるつもりだ。今後ともご支援をどうぞよろしく。
（ブンブンプロジェクト神奈川事務局）



メジャト小学校の生徒70人を乗せ、島の沖合いを遊覧航海。

ロンゲラップ島民におくるリイマンマン号(北の屋号)全長十六メートル、六・四トン)は富津港で改装を行い、七月三〇日横浜から貨物船に載せられ現地へ向った。マジュロ到着直後、エンジン故障が起き、パーツを日本から取り寄

さんご礁に歓声が上がった

——リイマンマン号、ついにメジャト島に到着——

島田興生

せて修理するなどトラブルも起きたが船は八月三〇日、メジャト島に到着、無事引き渡しを終えた。これで何とか第一段階を終え、ブンブンプロジェクトはいよいよ第二段階に入る。これまでのボランティアやカンパ活動、また贈呈品の提供などのご協力、本当にありがとうございます。

輸送に先立つ六月七、八日、七月五、六日、十九、二十一日の七日間には、述べ百人(この内の半数が民宿に泊まり込む)のボランティアが千葉県富津市の鈴木造船所に駆けつけ、船底の目落とし、甲板・エンジンルームの汚れ落とし、甲板・リッジ・甲板・船底のペンキ塗りに取り組んだ。工事は船からウインチや操具を外し、船旅に染なようにカンバス張りの船室とトイレを設置。ブリッジ上に日除けつき操舵室を設置し、八馬力の船外機つきの小型ボート

も積載。新型の無線機とコンパス、双眼鏡も搭載した。贈られる衣類、食器、学用品、英文書籍、自転車、老眼鏡、トイレ用紙、ソーラーパネルを船倉に収め、七月二、二二日には東京湾で試運転。その後船は横浜に回航、八月七日、マシヤル諸島の首都マジュロ島に到着した。八日、日マ両政府の調印式。九日、ロンゲラップ村主催の引き渡しパーティ。婦人ら七〇人を乗せた三〇分のお披露目航海では終始船の到着を喜ぶ女性の歓声が湾内にこだましていた。

無線機とソーラーパネルは滞在を延期した中島さんが設置。十二日、リ号はメジャトへ向け独航。しかし四時間後、オイル漏れによるエンジン故障を起し、マジュロに引き返す。日本のメーカーからの技術者派遣を断られ、マシヤル人エンジニアと協力し自力で故障原因を究明する。フライホイール部のシール(パッキング)の破損と分かり、二五日、事務局の清水がパーツを日本からマジュロへ運ぶ。二六日エンジンを分解、パーツを交換し試運転、オイル漏れの停止を確認。二八日、リ号は訓練生らと同乗



ボートからリ号にのりこむメジャトの小学生

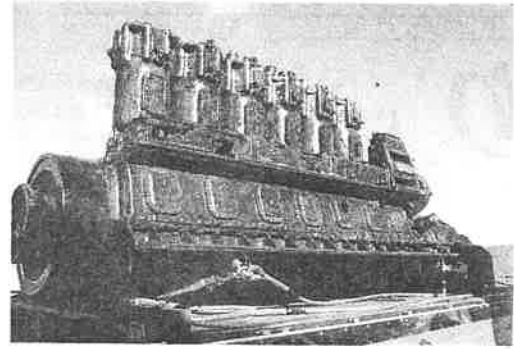
し一六日遅れてマジュロを出港、三〇日メジャト島に到着。

リ号はこのマジュロ「メジャト間約五百五十キロ、四一時間の初航海を郡船長と無事成し遂げる。一方、「第二回ブンブンツアー」の一行は別の船で八月六日メジャトを訪問、一晩島に滞在し、島民と交流。七夕夕刻、イバイへの帰路島の沖でボートが転覆、小島さんが負傷し、全員が濡れで一晩を廃船上で過ごし、救援を待つ事故に会う。

一方、メジャト島に着いたリ号は三一、大型のアンカーとブイ(四頁につづく)

第五福竜丸エンジンを東京・夢の島へ

21世紀をめざし、原水爆のない未来へさらに力強い航海を



引き揚げられた第五福竜丸のエンジン 長さ5.6m、幅1.1m、高さ2.5m、重さ12.5トン

●「和歌山県民運動」の趣意書要旨 昨年一月二日、紀伊半島(三重県御浜町)沖の海底から第五福竜丸のエンジンが、海南市在住の市民や関係者の手で引き揚げられました。三〇年前に船体と切り離され、別の貨物船の搭載エンジンとして再出発も束の間、横浜港から神戸港への航海途中、濃霧のため紀伊半島(御浜町)沖で座礁しそのまま海底に沈んだのです。そ

れから三〇年近い年月を経て、生まれ故郷の熊野灘からその姿を私たちの前に現れました。

私たちはこの度の「エンジン」の引き揚げに際し、第五福竜丸の故郷の県民の立場から、「エンジン」を「第五福竜丸」の船体と再会させ、非核・平和と核兵器の廃絶を訴える証言者として、夢の島の展示館への収容にむけた運動をよびかけるものです。

ひとりでも多くの県民の良識あるご協力を切にお願い致します。運動の目的

- 一、「エンジン」の引き揚げを機に、夢の島都立「第五福竜丸展示館」での再会をめざすことを第一の目的とします。
一、第五福竜丸建造の故郷である和歌山県民が、そのための声を幅広く全国に発信します。
一、被爆証人としての「エンジン」の県下自治体への巡回を通じて非核・平和と核兵器廃絶の願いを県民に広げる。
一、以上の目的にふさわしい募金活動を展開し、引き揚げ・運搬・展示等に係る費用をまかなう。

●「都民運動」のよびかけ要旨 私たちの住む東京には、世界で唯一の水爆実験の資料館があります。二二年前、都民をはじめとする草の根の運動でつくりあげた、夢の島公園の「東京都立第五福竜丸展示館」です。

いま、展示されている第五福竜丸にはエンジンがありません。三〇年前、エンジンは船体から抜き取られ、貨物船に積み込まれた後、紀伊半島の沖で海底深く沈んでしまいました。

「平和を訴えるシンボルにするため、船に帰してやりたい」と、昨年暮れ、二八年ぶりに、和歌山県の方がこのエンジンを引き上げました。エンジンはいま、核兵器廃絶を訴えるモニメントとして、和歌山県内で展示されています。そして和歌山の人びとは、このエンジンを東京・夢の島に運び、第五福竜丸の船体と再会させるための運動をひろげています。

私たちは、和歌山県の人びとのよびかけにこたえて、夢の島にエンジンを迎え入れるための都民運動をはじめようと、きょう、この

場が集まりました。私たちは、船体から、核戦争の恐ろしさ、残酷さ、非人間性を学んできました。そしていま、船体とエンジンを再会させることができれば、ビキニ水爆の被爆の全体像が、いっそうくっきりと浮かびあがるでしょう。

都民のみなさん。*みんな第五福竜丸の被爆後の軌跡をたどり、船体とエンジンの再会と保存を実現させましょう。

*船体とエンジンを未来にむかって保存するために、「展示館」の整備や建て替えを、東京都に求めていきましょう。*みんな「第五福竜丸展示館」を訪ね、ビキニ被爆の事実と核兵器被害の実態を学びましょう。*「東京都平和の日」の事業と連携して、平和のための東京都の事業をより強めるために、運動をひろげましょう。

都民のみなさん。水爆実験の「ものいぬ生き証人」第五福竜丸の船体とエンジンを再会させ、核兵器のない21世紀にむけて、平和な東京にむけて、その航海を、力強くはじめさせましょう。